

「新医療センター整備基本計画の修正方針」への意見について

奥州市長 様

令和7年1月28日（火）に開催した胆江圏域地域医療連携会議において、奥州市から説明のあった「新医療センター整備基本計画の修正方針」については、新医療センターの機能や医師確保、経営見通しなど各般にわたり協議が行われたところです。今般、この協議について下記のとおり意見を取りまとめましたので、本会議の方針を踏まえ今後の「新医療センター整備基本計画」の策定に反映いただくとともに、当該計画の推進に当たっては引き続き本会議に協議いただくよう要請します。

胆江圏域地域医療連携会議

会長 亀井 俊也

記

1 新医療センターの機能（必要性）について

今後の医療需要の予測や健康寿命の延伸への対応の必要性等を踏まえ、提供する医療機能とこれを実現するために必要な病床機能や人材確保等の観点からさらに検討する必要があること。

その際、保健センター機能や既存医療施設との機能連携や集約、立地等についての多様な意見を踏まえること。

2 医師の確保について

新医療センターの機能の実現や医療安全を確保する観点から、計画的な取組方針をさらに検討する必要があること。また、医師派遣を要する大学との連携強化や医師育成の体制等について具体化の検討が必要であること。

3 経営・医療施設の統合・再編について

新医療センターの経営見通しについては、今後の医療需要の予測等を踏まえた患者数や病床利用率等を設定したうえで再検討する必要があること。

併せて、多額の公費が必要とされる新医療センターの整備・運営と既存施設・機能の再編・統合を含めた公的医療機関の役割について市民への一層の働きかけ・合意形成が必要であること。

4 会議における主な意見（要旨）

別添のとおり

主な意見（要旨）

1 新医療センターの機能（必要性）について

- (1) 新医療センターの医療面の機能が不明である。今後の先行きについて予測するのは難しいと思うが、補足するデータは周りに沢山あると思うので、どのような医療の機能を提供していくかという構想が行き届かないとその先の設計や課題を皆様と一緒に共有して進んでいくのは難しいのではないかと。
- (2) 病床機能として、急性期 20 床、回復期 60 床で、利用率 89%とのことだが、そこから考えられる医師や看護師の必要数や病院の機能面としてのグランドデザインが資料から見えてこない。市民に対してどのような医療を提供していくかというグランドデザインを示さないと、判断材料がなく、新医療センター建設に向けた議論は進まないのではないかと。
- (3) 新医療センターを整備しないと、資料 1 ページの「(1) 地域包括ケアに資する身近な医療の提供」や「(2) 妊産婦サポート、子育て支援、健康寿命を伸ばす取組等の推進」などができないのか。こうした機能と新医療センターはイコールではないのではないかと。
- (4) 新医療センターのような保健センター的な役目を持ちつつ、病院もあるというのはあってもいいと思うが、水沢病院を廃止し、新医療センターを建設しなかったからといって「この地区の医療が成り立たなくなるのか」という点も考えていく必要がある。
- (5) 水沢地区で考えれば、胆沢病院が急性期を対応して、啓愛会、石川病院、おとめがわ病院及び開業医の先生方で回復期や慢性期を対応し、胆沢地区や衣川地区などの医療施設の少ない地区は市の医療機能を活用するなどの他、また、まごころ病院に隣接して病床を増やし、水沢病院のスタッフを集約するなど様々な検討をしていただきたい。
- (6) 江刺病院が縮小していくような雰囲気があるため、江刺地区あるいは羽田地区付近に病院を整備するなど様々な考えはまだあるのではないかと。既に水沢公園に整備することを決めつけて進んでしまっているところが懸念されるため、もう少し柔軟に考えて、地域の皆様にどのような医療を提供していくか、将来的な構想を立てた後に整備計画を示していただきたい。
- (7) 健康寿命を延ばす対応を新医療センターが担ってくればよいと思うが、そのためには口から食べられるようにするのが重要で、そういった具体的な内容について記載がないので計画に盛り込んでいただきたい。
- (8) 市の資料に、総合水沢病院院長の言われたような新医療センターの病院機能の内容が出てこないため、資料を作成するうえで留意していただきたい。

※上記(8)に関する総合水沢病院院長の発言

新医療センターの病院機能として考えているのは、感染症医療、災害医療、高齢者の入院必要時の対応、在宅医療、地域包括ケアなど。急性期 20 床については、少なくとも急性期医療を担えるようにしておくことから。例えば胆沢病院であまりやっていない肛門外科をやるなど状況に応じて少しづつ姿を変えろということ。地域の需要に応じて必要なことをやる。

2 経営に関する内容について

病床利用率 89%というのは今後も続くことのできる数字なのか。経営が行き詰まらないための数字ではなく、これ位の需要が見込まれるからこれ位ずつ赤字になっていくというような、実態に即した計画に考え直していただきたい。

3 医師の確保について

- (1) 内科医 2 名退職予定とのことだが、計画案では、救急の受け入れ増加なども記載されており、現在の水沢病院では対応が難しいと思われるがどのように対応していくのか。医師不足により、医師の負担が増え、医療ミスの発生等も危惧されるが、このままでは、市の医療の安全への姿勢も問われるのではないか。
- (2) 退職していく医師相当分の新たな医師の採用の計画というのは立てられないのか。5つの医療機関の医師を統合して対応していくなどの考えはないのか。
- (3) 医師確保は、資料では大学との連携強化と記載しているが、具体的な見込を示していただきたい。
- (4) 地域の中核病院でも大学からの医師派遣は厳しい状況であり、大学から派遣されることを希望的に考えていると無理があるのではないか。研修医については誰が指導するのか。診療体制のあまり整っていない病院に研修医を呼んでも研修はできないのではないか。
- (5) 資料では、初期研修医と初期研修を修了済の方との区別をしっかりとすること。言葉の使い方、単語の意味を十分考えたうえで資料を作成していただきたい。

4 医療施設の統合・再編について

- (1) 全国で大きな病院の再編・統合の議論が進んでおり、この地区においても議論を活性化させ、新医療センターを建てるのであれば、再編・統合について、何らかの答えを出さなければならないのではないか。
- (2) 再編・統合については、地域住民は、合併する前の 5 市町の全ての圏域に医療施設を残すべきという考えがあるため、住民の合意形成ができなければ前に進まないのではないか。
- (3) 新医療センター建設には 100 億円程かかり、そのうえ、毎年、繰入金も 10 億円程度発生する。これらは市民が負担するわけで、公的病院の役割を（現在の水沢病院も含めて）果たせていけるのか疑問であり、市民に向けて、これらの負担について説明し、再編・統合を含めて、今、新たに建てるべきかどうかという議論を積極的に働きかけていかなければいけない時期にきているのではないか。